

「いたて便り」Vol.2

土から復興を考える



飯舘村 長泥行政区
区長 嶋原良友

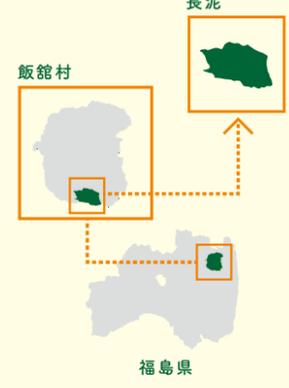
手に持っているものは
農地で栽培しているトルコギョウです。

長泥には「希望」があります。

福島県飯舘村長泥地区で行われている
除染した土の活用に向けた国の実証事業に
さまざまな意見があることはわかっています。
ただ私は、これは夢のある
事業だと考えています。
長泥にまだ戻れない人が希望を持てるような
だからどうしても国には
成功させてもらわなければならないんです。
まず一つ成功させて、
また一つ成功させる。
そうやって再生が実感できるような
道筋を作るために、
多くの人が汗をかいてくれています。
私もできる限り実証事業の現地を訪れて、
土を耕し、草を取り、
植物の生育を見守りながら、
世の中の人々と共に、
長泥の再生を見届けたいと願っています。



2020年1月長泥



村の鳥：うぐいす

環境省

環境省は飯舘村の長泥地区において、
除去土壌の再生に関する安全性や
作物の育成の確認を通して、
将来の農業の再生を図るための
実証事業を行なっています。
「いたて便り」全4回を通して、
環境再生に向けた進捗状況などについて
ご報告いたします。

「までいの村」から。

「までい」は、「手間暇惜しまず」「丁寧に」「心を込めて」という飯舘の方言です。

実証事業における
試験栽培を通して、
農作物中に含まれる
放射能濃度を測定し
安全性を
確認しています。

2019年10月に得られたデータ
では、除去土壌を用いて栽培した
ジャイアントミスカンサス中の放射
能濃度は5Bq/kgと、食品の放射
能濃度基準の100Bq/kgと
比べても大きく下回っていました。



これからも飯舘村の実証事業を
通じて環境再生に向けた様々な
試験を行い、安全性の確認を続け
てまいります。



いいたて便り Vol.3

土から復興を考える



専攻科 産業技術システム工学専攻1年 柳井 正樹

専攻科 産業技術システム工学専攻1年 小林 千莉

専攻科 ビジネスコミュニケーション学 専攻2年 嘉齊 滯

建設環境工学科 5年 佐藤 彩花

私たちは「知ること」から始めました。

福島工業高等専門学校では、学生みなさんが除去土壌の再生利用に関する研究に取り組んでいます。それに込めた思いを4名の方に伺いました。全員が福島県出身。

根底には震災で傷ついた福島の復興に関わりたいという願いがありました。

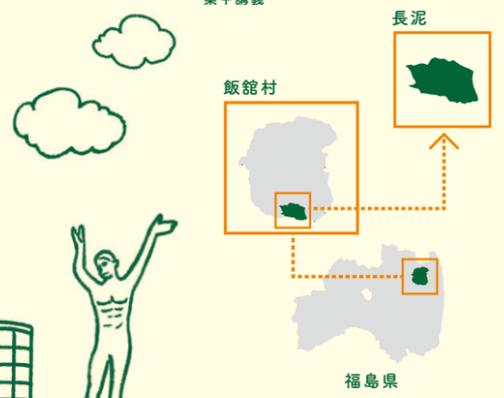
「集中講義や長泥地区でのフィールドワーク、共同教育などを通して放射線のこと、除去土壌の現状などを学びました。

そこで得たものはまず『知ること』の大切さです。さらに交流や議論を経験することで考えを深めることができました」

また「『知ってもらおう』努力は自分たち若者の責務だと思っています」とも。「これは自分たちの未来の問題でもある」と語ってくれました。



集中講義



福島工業高等専門学校



環境省

環境省は飯舘村の長泥地区において、除去土壌の再生に関する安全性や作物の育成の確認を通して、将来の農業の再生を図るための実証事業を行っています。「いいたて便り」全4回を通して、環境再生に向けた進捗状況などについてご報告いたします。



飯舘村での再生利用実証事業を見学しました。

令和元年9月に福島高専の学生みなさんが飯舘村を訪れ、栽培されている植物の現状などを確認しました。目的は現地に赴いて「知ること」。この活動は今後も継続していくことになっています。



飯舘村・環境再生事業の見学



飯舘村役場における共同教育

「までいの村」から。

「までい」は、「手間暇惜しまず」「丁寧に」「心を込めて」という飯舘の方言です。